

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	成城大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	セイジョウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	海外短期研修(マレーシア・就業体験研修)
	学部・研究科等名	経済学部・文芸学部・法学部・社会イノベーション学部
	担当教職員名・役職	川崎 恭治・国際センター長
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	12
受入企業等数	4	
受入企業等名	日本航空株式会社三越伊勢丹ホールディングス株式会社The LoafCC国際交流委員会	
インターンシップの分類	3.海外インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入企業によりプログラムは異なるが、全期間企業における業務へ従事することもあれば、PBL型学習のように課題解決に取り組むこともある。また、それぞれを組み合わせた就業体験もあり、多様な就業体験を実施している。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次～4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	国際交流科目の内の1科目として位置づけられている。本来的な意味のインターンシップを実施することから、配当年次についての制限は設けていない。また、別に現地で開設する語学研修(1単位)と併せて履修させる科目であるため、合計で3単位を付与する研修となっている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	海外での危機管理および緊急時の対応について、保険会社と連携して指導を行っている。現地の文化背景の理解を促進させるため、政府観光局によるセミナー等を実施し、異国文化への理解を促している。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他

	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	海外インターンシップに参加していることから、直接の面談は行っていないが、メッセージ機能を利用した報告連絡相談を徹底させている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	履修者決定後、学内にて業界・企業研究や社会におけるマナーについて指導を行うと共に、語学研修、異文化社会に対する理解を深める学習機会を提供している。また、キャリアカウンセラー資格を持った教職員が、学生個人に対しての目的意識の設定や現地インターンシップ時の目標設定などのサポートを行っている。受け入れ企業によっては、国内拠点における研修機会をご提供いただき、業界・企業理解の促進を図っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	帰国後、インターンシップ時につけていた日報や受け入れ企業からの評価表を基に、企業グループ毎に学びや気づきを整理・棚卸を行う。個人で立てた目的・目標に対しての振り返りを行うと共に、各企業の日本本社にて実施する報告会のための準備をする。受入企業への報告、社員からのフィードバックに対して改めて振り返りを行うことで、学びの定着化を図っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	海外でインターンシップに参加することから、定期的な報告はメッセージ機能を利用して行っており、大学教職員がその内容を確認し、適宜助言・指導を実施することとしている。また、学内で危機管理マニュアルを制定し、緊急時の連絡についてはその段階に応じたタイミングでの報告を徹底させている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学間連携共同教育推進事業で独自に作成したルーブリックを用いて、インターンシップの事前事後の変化について確認を行っている。また、その内容について学生がキャリアカウンセラーと共に振り返ることで、俯瞰的・客観的に捉えられるようにしている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前・事後学習として学内での講義・研修は別途設定しているが、インターンシップの実施期間は連続した5日間を基本としてお受け入れいただいている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとつての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	プログラム設計の中で、企業側のメリットを考慮しながらも、学生の学びが担保されるように内容を調整している。企業によっては、事前に国内拠点において研修を実施してもらっている。また、評価表を作成しており、企業側にインターンシップ中の学生に対する評価を実施・提出してもらっている。事後学習の集大成として国内本社における報告会を実施し、講評をいただくことで、学生のキャリア形成の一助となる仕組みを整備している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://cs.seijo.ac.jp/campusweb/campussquare.do?flowId=SYW0703010-flow&nendo=2017&jscd=81&jcd=6198&locale=ja_JP
問い合わせ	大学等名	成城大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	小須田 智明
	電話番号	03-3482-9063

ヒ
先

メールアドレス

career@seijo.jp